

2023MFJ 全日本スーパーモト選手権第5戦 名阪スポーツランド 参戦レポート

MFJ 全日本スーパーモト S1Open クラス

MERCURYPRODUCTS #9 薄井保彦

9月17日名阪スポーツランドで開催された MFJ 全日本スーパーモト選手権第5戦に参戦しました。

モタードレースはターマック 7 割、ダート 3 割とされていますが、名阪スポーツランドは全日本モトクロスに使われるコースを使ったダート 5 割の(走行時間ではダート走行の方が長い)特殊なコース配分。

さらに今回 S1 OPEN クラスはエントリーが 29 台。予選落ちが 4 台出る状況です。

前日練習日の朝コースチェック。この時は散水がしてあり、踏み固められているのでコース状況は良好です。



ダート進入から180度ターン後の登り路面。右に曲がりながら画像では見えていませんが急坂になります。

以前、雨のレースでは急坂の途中で止まってしまい再始動に相当苦労した思いで深い箇所です。

攻略法としてはとにかくスピードを保って決して止まらない。急坂で止まるとそこから上るのはほぼ不可能で一旦コースを戻って勾配の少ない所から再スタートしないといけません。



急こう配を上り行って左コーナー後に今度は下り。その後モトクロスではフィニッシュ部分になるテーブルトップ。結構でかいです。



その後フラットな左コーナーを経てコース幅の広い100m程の直線。画像は進行方向から逆に撮ってしまったので画像右上から向かってくる形になります。

その後画像手前のフラットな180度ターン。



そしてターマックに戻る急な下りの右ターンが今回のダートのレイアウトになります。

前日練習は20分×3本。特殊なコースの為スリックタイヤで行くか、ドライでもダート重視でレインタイヤで行くかタイヤの組み合わせをいろいろ試します。

結果、ダートで少しでも有利に行けそうなレインタイヤで決勝日は走る事にします。

実は名阪は結構参戦していますが、大体のレースは雨でドライのレースは今回で3回目。今までドライはスリックタイヤで走っていましたが、ダートでタイヤが冷えてくれるのでドライのターマック路面でもレインタイヤがそれほど荒れないのとスリックタイヤの車両にターマックで十分付いて行けるのを今回確認できました。

もちろんアクセルの開けるタイミングはスリックの様にはいかずじんわり開けないとリアがブレイクしますが、ライン取りの工夫でそれほど差が開くことはなさそうです。

レース当日。天気は晴れ。ダートは一部散水されていますが基本的にはフカフカの状態。

今回も今シーズンより採用された公式練習と予選が同じ走行内で行われるフォーマット。5分の公式練習時間は路面チェックと予選の位置取りに費やし少し自分より速そうな久谷選手、千葉選手の後ろに付きます。ちなみに両選手ともスリックタイヤ。千葉選手はダートのトラクションを狙って細いリヤタイヤを履いています。

5分後、グリーンフラッグが振られタイム計時が始まります。

とにかく予選落ちだけは避けたいところ。ダートの長い名阪は毎回モトクロス出身だったりダートが得意ないつもと違ったメンバーが上位に顔を並べます。

久谷選手、千葉選手、自分の順で走行。後ろとは間隔があるので千葉選手と少し間合いを取って走行します。ダートでは遅い箇所もありますが、巻き返せる箇所もありターマックでもスリック組とそんな色なく走れていい感じ。

予選計時を3周走り4周目。30度越えの蒸し暑い中の走行、ダート入って最初の鬼門の急坂右側で千葉選手が失速。避けようと左に車体を振った所、後続選手に接触転倒。一番転倒したくない所で転んでしまいます。バイクはコースのど真ん中。ハンドルを下に横たわっているのでバイクを引きずり向き変え。右に曲がりながらの部分なので後続から死角になってイエローフラッグが振られていても体や車両にバンバン後続車両が当たって通過して思う様にバイクを引き起こせません。というか、この路面は絶対スピードを落としたいくないのとフカフカの路面のせいで転倒車両が居てもコントロールできない車両がほとんどだったと思います。

体中に熱がこもり体力はどんどん奪われ遂には熱中症の症状が出始めます。転倒車両を放っておくわけにはいかないのになんとか壁際の邪魔にならないところまでバイクを移動して予選を諦め観客のいる方へ。とにかく水が欲しい。その時点で視界がチカチカしてきてしまいます。

熱中症なのを察知してくれた観客の方や別チームの方にツナギを脱がしてもらい水分補給と全身に水をかけてもらいます。そのころには視界はほぼ真っ白。ピットに戻る事も出来ずその場で 30 分位横になっていました。

サーキットドクターに冷やすところのアドバイスをもらいおとなしくしているうちになんとか立ち上げられるまでには復活。横になっている間中、扇子で観客の方に仰いでもらったり、氷や水を分けてもらったりと感謝しきれない程助けて頂きました。

予選は 3 周しかできませんでしたが結果は 17 位。前を走る久谷選手、千葉選手よりも上のグリッドを獲得していて予選落ちも回避していました。

ドクターに相談して絶対無理をしない約束でヒート 1 は走る事に。



少しぼーっとした現実味の無い中でヒート 1 スタート。

1 周目はターマック部分でもダートの 1 コーナーでも波乱があるだろうと予想。案の定ターマック 1 コーナーで 1 台転倒。



コース左側に車両が集中した中で後方選手が自分に接触。弾かれた自分のバイクが千葉選手に追突してさらに 3 台の多重クラッシュ。



自分のバイクは千葉選手のバイクの上に完全に乗っかってしまっています。

自分のバイクに駆け寄ると既に千葉選手が自分のバイクを引き起こしてきてくれて受け取り再スタートしようとハンドルに手を掛けるとクラッチレバーが折れて無くなっています。これでは再スタートもできず 1 周目 1 コーナーでヒート 1 はリタイヤ。

ヒート 2 までにクラッチレバーを K'S ガレージの金児選手からお借りして修復。マシンのダメージはクラッチ以外にはステップが少し曲がった程度。体は左側全部痛いけど走れそう。

お昼休みを挟みヒート 2。

ヒート 1 のグリッド順なので最後尾スタートです。

この位置では 1 周目頑張りすぎずに後ろから落ち着いてトラブル回避して順位を上げていった方が良さそう。

ヒート 2 スタート。



意外と荒れずにダート部分まで進みました。



でも、やっぱり何かあります。1 周目ターマックに下るダート部分で 3 台多重クラッシュ。

狭いうえに急な下りで復帰に手間取り後方選手は坂の上で待機の状態。転倒車両より前を走っていた選手と
どンドン差が広がります。1 周終えた先頭集団が迫るころやっとコースクリア。数台は後ろにいて少しは順位を
上げた模様。



トップ争いの邪魔をしない様に後続に注意しながら走行。



転倒者やリタイヤもあり18位。両ヒート共ノーポイントでした。

熱中症の影響が少し記憶もあいまいです。

今回は熱中症に始まりグダグダなレースになってしまい不完全燃焼です。次戦美浜最終戦でモヤモヤを吹き飛ばしたいと思います。

引き続き、サポート、応援よろしくをお願いします。